

# かわにし

議会だより

第117号

2014

4.15



しゅっぱつ  
しんこう!

3月22日 羽前小松駅一目駅長の勇姿  
P25に関連記事

こうやったらどうか

初めての政策提言書を提出..... 2

7年ぶり減額予算..... 6

観光行政など4議員が町政をただす... 16

条例 地酒で「かんぱーい」..... 22



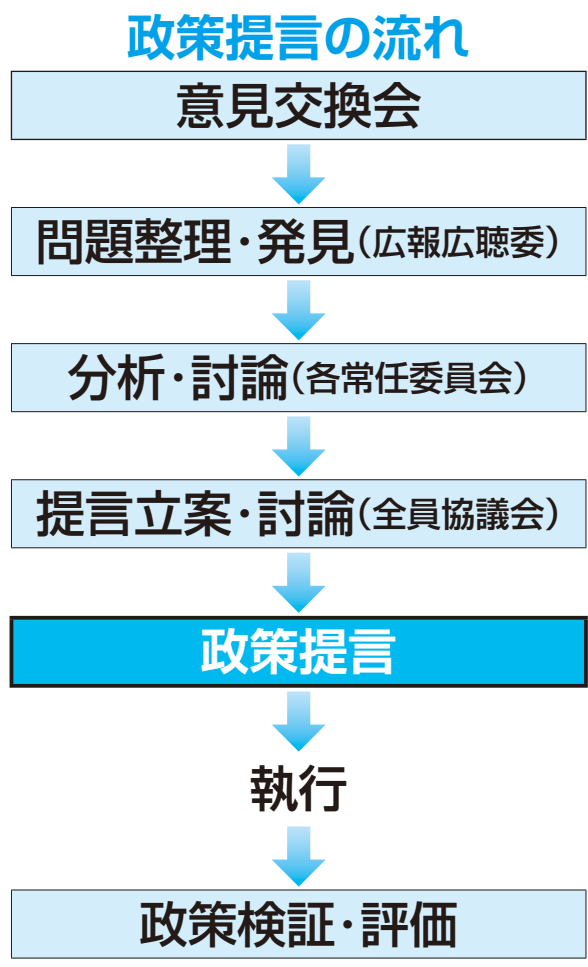
# 初めての政策提言書を提出

一年後に検証・評価を行う

1月20日、本町議会で初めての、全議員合議による政策提言書を町長に提出した。これは昨年5月施行の川西町議会基本条例の規定によるもので、町民との意見交換会の開催を軸とした一連の議会活性化プログラムの一つとして位置づけられている。

左下に図示したように意見交換会でだされた具体的意見（本紙前号）などから問題を整理・発見して、分析を加え、

最終的に段階を踏んで数回の討論を行い成案としたものである。これに対して2月20日、町長から現時点における取り組みの報告や、次の総合計画の課題とするなどの回答があった。提言に至る過程にも提言そのものにも反省点が多いが、この回答書については、来年の今ごろ政策検証報告書が作られることとなる。



議長から町長へ「政策提言書」を手渡す



築44年、中央公民館も老朽化した



## 1 提言 施設の複合利用を推進せよ

- 1 施設の現状を把握、整理・分析し、町有施設再生計画の基  
本方針を策定すること。
- 2 建設の際は、総合計画との整合性をとり、「まちづくり」  
の大きな視点で、計画的に進めること。
- 3 施設は、利用者の利便性や安全性、機能性を重視すること  
もに、複合化すること。
- 4 施設建設後の点検・検証を制度化すること。

### 再生計画と 制度設計を考える

#### 回答

町有施設再生計画の基本方針については、第5次川西町総合計画策定の中で検討することとなる。これには総務省の通知もあり、すべての公共施設について①長寿命化を図るための補修などの維持管理策 ②更新が必要に  
なる時期と費用 ③廃止や統廃合などの将来的方向性を検証した方針となる。  
3の提言については全く同感である。  
4については、建設後一定期間中の点検・検証について、制度化を検討する。

提言書はまちづくり



# 提言 4 ちやたらどわか



吉島「四季の市」のおかあさんたち。今日も美味しく

## 提言 4

### 6次産業化の推進—販売戦略を第二番に

- 1 消費者動向や物流の仕組みの研究を行い、的確な販売戦略を立てる。
- 2 地域の特性や既存施設の優位性を生かし、高い付加価値を持った商品づくりの指導を行う。
- 3 地域振興の核となる拠点施設の整備を早急に行う。
- 4 拠点施設では、情報発信と物流の核となる仕組みづくり、人材育成システムを確立すること。
- 5 拠点施設設置にあたっては、複数の候補地を選考し決定すると同時に、経営主体の選定についても十分吟味すること。

#### 回答

多様化する消費者ニーズに対応し、優位に販売を進めていく上で、農産物や加工品の

#### 加工品の生産・販売までの一貫した戦略をつくる

生産から販売までを一貫性のある販売戦略として構築する必要がある。

この観点から、町内の農産加工事業者に対し、新商品の開発や既存商品の改良、パッケージデザインの提案などを行ってきた。商品の高付加価値化に関しては、原材料へのこだわり、加工方法、ネーミング、希少性など多くの要素があるが、今後とも指導に努めていく。

拠点施設については公設民営を軸に考える。

## 提言 2

### 待機児童の実質ゼロを目指せ



小松保育所、乳幼児の入所希望は拡大する一方だ

- 1 乳児保育の入所基準を緩和し、保育園等の待機児童の実質ゼロを目指して、受け入れ態勢の充実を図ること。
- 2 学童保育の施設などの充実と、財政的支援のさらなる充実を図ること。

#### 0歳～2歳の入所定員を拡大する

#### 回答

入所希望の多い0歳から2歳児までの受け入れについて、認可保育所では入所定員の拡大を図る。さらに、他の乳幼児施設との連携により入所受け入れ枠を充実させ、提言の「待機児童実質ゼロ」の実現を目指す。

また放課後児童クラブの運営については、今後「川西町こども子育て支援事業計画」のもと、町の事業に位置づけられることとなる。施設の受け入れ機能の充実という点では学校を含め、公共施設全体の活用の中で十分検討する。

利用料の一部補助についても拡充したい。

## 提言 3

### 水田基盤整備、町負担枠の拡大を

- 1 国に対して地方負担軽減のための新たなガイドラインの創設と事業の継続、枠の拡大を求めること。
- 2 町は早期事業完成のために、町負担予算枠の拡大を行うこと。

#### 回答

現在、事業採択および調査が実施されている地区と、今後予定される1300ヘクタールを含めると総事業費は約260億円であり、その内町は10%を負担する。

しかしながら町としては、年1億円程度の予算措置が上限である。早期推進のためには、負担率の変更を国に強く要望するしか方策はない。

#### 年1億円程度の負担が上限



このペースだと26年もかかってしまう水田基盤整備



26年度予算決まる  
96億1800万円

7年ぶり

# 減額予算

3月  
定例会



「子育てのまち川西」 いっぱい泣いて いっぱい遊んで ぼくらはもうすぐ一年生(北斗幼稚園卒園式)

### 平成26年度一般会計予算の特徴

- ① 7年ぶりの減額予算。前年度当初比2.1%減。  
小松小学校耐震化事業終了。
- ② 投資的経費は12億4190万円。借入金は8億9250万円。  
過疎債を積極活用。
- ③ 人件費0.7%増、補助費4.2%増、義務的経費増。

平成26年度の一般会計予算の総額は、96億1800万円、前年度対比2.1%減で、7年ぶりの減額予算となった。

財政の健全化に努める一方、浴浴センターまどか大規模改修、公営住宅建設、玉庭小学校校舎耐震化等、重点事業に積極的に予算を

配分した。

また、虚空蔵山西線道路改良、6次産業拠点施設、パークゴルフ場、診療所等次年度以降の重要事業の設計や調査にも取り組む。

特に若者の定着、子育て支援を進めるための取り組みを行う。

その一つが、町内で働く現役世代が生活し

やすい環境づくりを進める新規事業の勤労者住宅支援事業である。

民間業者がアパートを新設する際に、上限1000万円を補助する。

もう一つは、中学生までの医療費無料化で、「子育てのまち川西」の実現のため継続して実施する。

議会では、予算特別

委員会では詳細な説明を受け、白熱した議論を行い、慎重に審議を重ねた。

議会からは、今年度、次年度と大型の事業がめじろ押しだけに、町の重要課題解決、住民の期待に応えながらも、財政規律を守ることが強く求める声があった。

### 3月定例会のあらまし

3月定例会が3月4日から19日までの16日間の会期で開催された。

第1日目に、監査委員の選任、固定資産評価委員の選任等人事8件、財産の取得1件を審議した後、町道路線の廃止・認定2件、請願2件の審査を常任委員会に、条例等3件、本年度補正予算、新年度予算等10議案の審査を予算特別委員会にそれぞれ付託した。

第2日目に、4議員が一般質問を行い、農業問題、観光行政などを取り上げ、町政をただした。

第3日目以降に、常任委員会、予算特別委員会分科会を開き、議案を審査した。

最終日に、予算特別委員会の採決後本会議を開き、付託した15議案を原案通り可決し、追加提案された条例1件を可決した。議員発議で地酒で乾杯条例を可決、請願1件を採決、請願1件を継続審査とし、議員定数に関する調査特別委員会の報告を行い、閉会した。

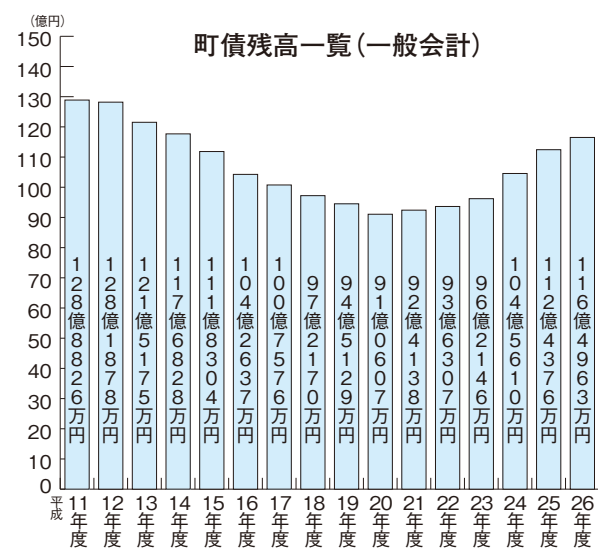
なお、今期定例会の傍聴者は34人だった。

## 議会、財政規律を注視

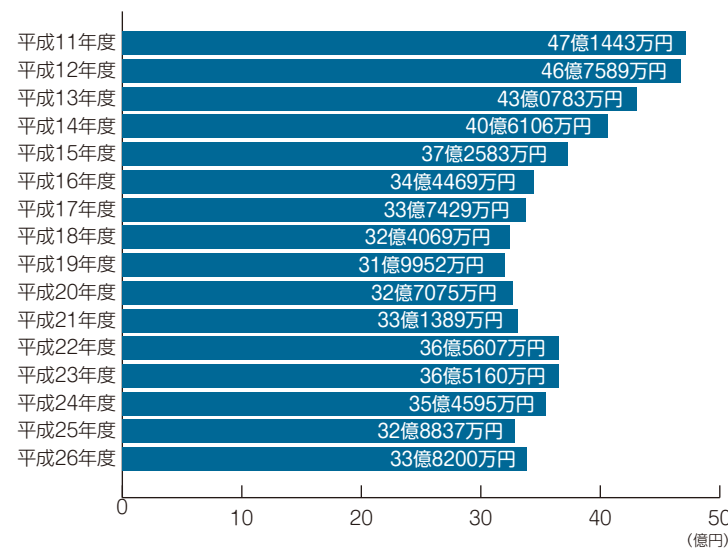
# 浴浴センター大規模改修 玉庭小学校耐震化工事に着手

### ここが知りたい

#### 町債(借入金残高)の推移



#### 地方交付税の推移(置賜広域病院組合分を除く本町純粋分)







「子育てのまち川西」 胸のコサージュが誇らしい(川西中学校卒業式)

## 平成26年度各会計予算

会計別	歳入歳出予算	議決の内容
一般会計	96億1800万円	全員賛成により可決
国民健康保険事業特別会計	19億0888万円	賛成多数により可決(反対1)
下水道事業特別会計	5億6199万円	全員賛成により可決
農業集落排水事業特別会計	8498万円	全員賛成により可決
介護保険事業特別会計	17億3598万円	賛成多数により可決(反対1)
後期高齢者医療特別会計	1億5415万円	賛成多数により可決(反対1)

企業会計		収入	支出	議決の内容
水道事業会計	収益的	5億3878万円	5億2539万円	全員賛成により可決
	資本的	7836万円	2億3974万円	

資本的収支、不足する1億6138万円は消費税調整額、損益勘定留保資金で補てん

町長 「総合計画策定室」を置き、諸課題の解決に向け、町民に希望を与えられるような計画を策定したい。

佐々木 施政方針で次期向け、担当部署を設置するとしているが、その考え方は。

町長 各地区的「地区計画」は27年度で終了する。次期総合計画と地区計画が連携できるように策定を進めたい。

佐々木 各地区で「地区計画」を策定し地域づくりに大きな力を発揮している。地区計画との連動性は。

佐々木 賢一 議員

### 次期総合計画策定をどうする

橋本 国の1号補正予算の「がんばる地域交付金」や「公共施設等総合管理計画」に基づいた公共施設の取り壊しに対する地方債の発行など、有利な財政措置があるが、財

町長 常に、情報網をめぐらし、有効な形で活用していく。

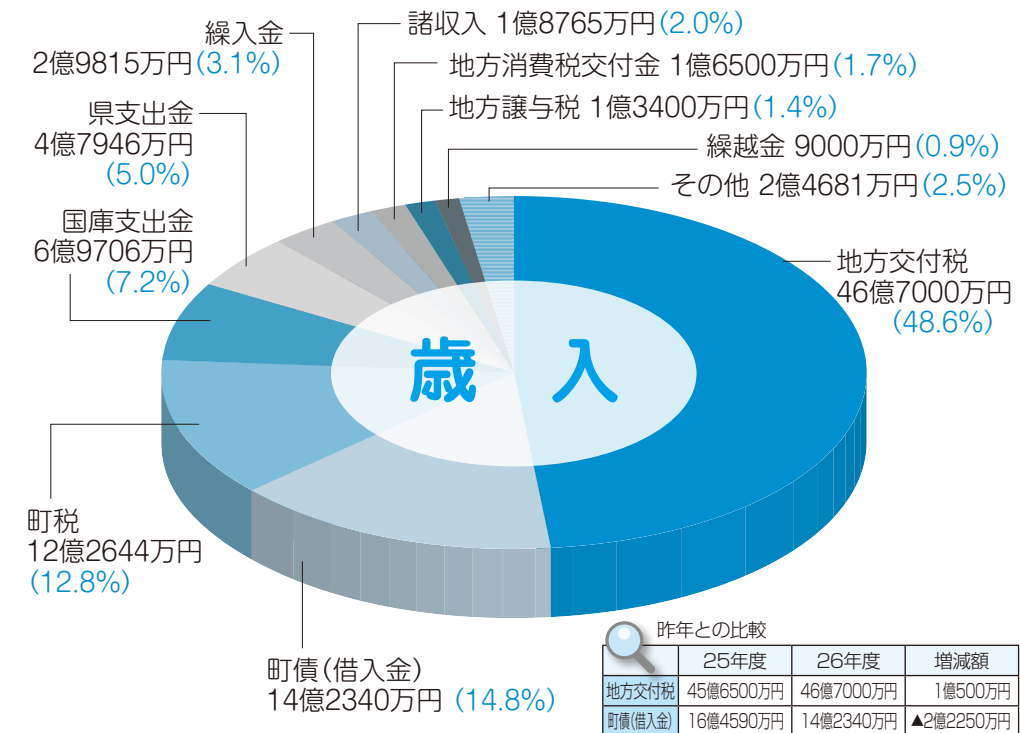
橋本 欣一 議員

### 国の補正予算を有効に活用せよ

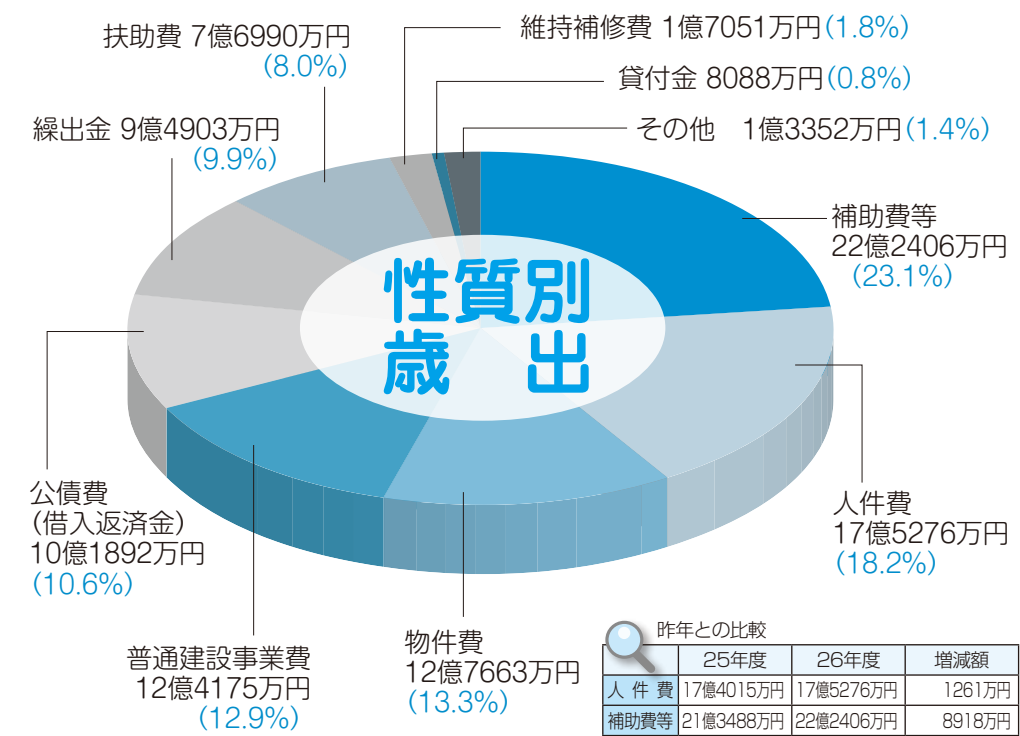
## 総括質疑

予算特別委員会は、常任委員会を単位とする2分科会で構成され、一般会計等7会計の予算、関係条例を審査した。

ここでは総括質疑、分科会での質疑を要約した。



## 一般会計 96億1800万円



予算  
審議

健全財政を貫け

今後の投資的事業見据えて



# 私もひとこと

犬川地区 島貫 智子 さん

今回、浴々センターまどかが大きく改装されるのですが、期待しています。特に、待望のエレベーターが設置されると聞きました。高齢化が進むなかで、お年寄りの皆さんにとって朗報だと思います。



玉庭地区 鈴木 賢徳 さん

玉庭小学校の施設の耐震化工事が始まりますが、特に体育館の新築には期待しています。今まで小規模な補修には保護者会でも人的、財政的にも応援してきました。安全な教育施設として、また地域交流の拠点として大いに活用したいですね。



長井市 藤尾 由希 さん

勤労者を対象にした賃貸共同住宅（アパート）建設に対して、町が支援すると聞きました。長井市から川西町に通勤している私にとっては、早く建設されればと思います。川西町に住む人が増えれば店の業績UPも？



## 26年度 予算



### 消費増税に生活支援 臨時福祉給付金支給 4500万円

平成26年4月から消費税率が8%へ引き上げられるが、所得の低い人たちへの負担の影響を緩和するため、暫定的な措置として臨時福祉給付金を支給する。

支給対象者は、町民税が課税されていない人3600人を見込んでおり、支給時期は6月以降の6カ月間を想定している。支給額は1万円で、年齢基礎年金等の受給者は5000円が加算される。

### 子育て世帯臨時特例給付金支給 1735万円

消費増税による、子育て世帯への影響を緩和し、消費の下支えを図る観点から、臨時的な措置として給付金を支給するもの。

支給対象者は、1月分児童手当の受給者であり一定所得に満たない人で、支給額1万円、対象児童は1735人を見込んでいる。



若者の定住を目指す

勤労者の生活安定と町内定住化を図るため、勤労者を対象とした賃貸共同住宅を建設する民間事業者に対して支援を行うもの。早期に事業説明会を開催し、需要の把握に努める。

町内事業者が建設する場合の補助金は、1戸当たり100万円、1000万円を上限としている。

町外事業者が建設する場合の補助金は、1戸当たり80万円、800万円を上限としている。

10000万円  
勤労者向けアパートへの支援



平谷地住宅、解体後は当面駐車場に

町営平谷地住宅の老朽化に伴い、10戸を建て替えるもの。平谷地住宅の解体も行う。

建設場所は、旧町立病院看護師宿舍跡地。建設のコンセプトは、「周辺環境や気候風土を考慮した高齢者にやさしい住宅」。2DK2戸、1DK8戸の集合住宅となる。

工事期間は6月から10月までを見込み、11月には入居を予定している。

1億8499万円  
公営住宅建設



20年ぶりに装いも新たに

浴浴センターは築20年を過ぎたことから、整備に向け25年度に実施設計を行った。

エレベーター新設、玄関の統合、宿泊室の改築、レストラン・厨房・配膳室の配置変更、大宴会場の整備、会議室の変更、売店の新設、無料休憩室の位置変更、カラオケルームの新設等大規模な改修を行う。

工事は10月から6カ月間とし、その間は休業補償を行う。休館中は社員研修に努め、施設のみならず従業員のスキルアップを図る。

3億1982万円  
浴浴センターまどか大規模改修



右側校舎は補強、正面体育館は改築

文部科学省の「学校施設整備基本方針」により、学校施設の耐震化が義務づけられているが、玉庭小学校は25年度に耐震診断を行った。

その結果を受け、26年度に校舎の耐震補強工事を実施する。事業費は2206万円。

また屋内運動場については、26年度から2カ年の事業として改築を行うこととし、今年度は事業の20%の進展を見込んでいる。事業費は5944万円。

8150万円  
玉庭小学校耐震化工事



# まどか改修に合わせて ダリヤ園の宣伝にもっと工夫を



リピーターの獲得が課題

**問** ダリヤ園の宣伝に努め、その効果を高める具体策を問う。

**産業振興課** テレビCMや県内及び近県メディアへのダリア展示によるPR宣伝をはじめ、駐車場の改善、身障者駐車場の拡張、置賜管内の介護施設などへの営業活動を実施し、誘客活動を行っており、今後も継続する。

**問** 6次産業化拠点施設整備支援事業の概要を問う。

**産業振興課** 拠点施設は、構想として農産物直売所、飲食提供機能等500㎡程度を計画している。26年度は基本設計を行い、出荷者公募、出荷組織設立などを進める。今後は27年度に実施設計、指定管理者選定、人員体制調整などを行い28年度に開業したい。

**意見** 確かな経営戦略の確立と、運営主体に農業者が積極的に参画できるような体制を作り、リーダーの育成を行うよう求める。

**問** 人・農地プランの作成状況と今後の取り組みを問う。

**農地課** 人・農地プランは町内8地域で作成されている。地区全域を対象としたところが5地区ある。(下表)

**人・農地プラン作成状況**  
今後の地域農業の在り方を示した人・農地プランが8地区で作成されている。

地区名	作成年月	面積
東沢(全域)	24年12月	297.1ha
坂町	25年3月	34.3ha
東大塚	25年6月	91.4ha
吉島(全域)	25年6月	1005.5ha
小松(全域)	26年1月	401.7ha
犬川(全域)	26年1月	563.8ha
中郡中央	26年1月	91.5ha
玉庭(全域)	26年1月	419.4ha
合計		2904.7ha

**意見** 米沢市、関係機関と連携し、事業費の確保を行い、早期完成を実現するよう求める。

**問** 健康福祉センターの機器のPCB処理の具体策を問う。

**健康福祉課** 平成28年7月まで適正処理を行うよう法律で義務付けられている。同センター内にあるPCB使用の蛍光灯、トランスの処理費用として439万円を見込んでいます。

**意見** 未作成の地域に對し、地域における話し合いや合意形成に向けた進め方などの支援を図るよう求める。

**問** 近年鳥獣による被害が拡大しているが、猟友会活動への支援が必要でないか。

**農地課** 猟友会の活動に對して20万円を支援している。また、会員が減少していることから、狩猟免許取得

費用の一部として一人に對し上限16万3000円を助成している。さらにサル1頭捕殺につき3000円を助成しているが、国においても支援策が講じられているので、取り組みを検討したい。

**問** 虚空蔵山西線道路改良工事の取り組みはどのよう進展しているか。

**地域整備課** 平成25年度に概略設計を実施した。延長は米沢市側400m、川西町側1000m。26年度は詳細

# 新小松保育所建設計画 保育ニーズに対応

**問** 小松保育所建設整備計画策定の考え方を問う。

**教育総務課** 現在の小松保育所は老朽化が著しいので、乳幼児の安全な保育環境の確保と新たなニーズに対応するため、民営化を視野に入れながら平成26年度中に新保育所の建設計画を策定する。

**意見** 整備計画策定にあたり、民営化にこだわらず、複合施設も考慮するなど大きな視点に立って慎重に検討するよう求める。

**問** 本庁舎の耐震診断を行う予定だがその経緯を問う。



元気印には保育室も手狭になった

**総務課** 平成25年11月改正の「建築物の耐震改修の促進に関する法律」により、防災拠点建築物に指定されるものは、耐震診断結果

**問** 報告することが義務付けられている。ふるさとづくり寄付金をどう増やすか。

**企画課** 寄付金への御礼品を13種類からの選択としたことで、多くの人に寄付をいただく結果となった。寄付金に對するお礼の町内物産の選定など、さらなる充実を図るよう求める。

**問** 防犯灯のLED化をどう進めるのか。

**生活課** LED電灯の導入に對し、各地区防犯協会を通し自治会の意向を受けて、支援する。

**意見** 環境への配慮を図るため、積極的な導入に向けて調査研究を行うよう求める。

**問** 東日本大震災の復興支援事業の内容を問う。

**まちづくり課** 復興支援バスツアーとして町民30人を募って岩手県大槌町を訪れ、ボランティアガイドの案内で被災地の現状を視察する。

**問** 川西の偉人調査事業の内容を問う。

**まちづくり課** 川西の偉人の足跡を公開するため、その準備を行う。現在のところ、本間喜一氏、片倉権次郎氏、黒澤悟郎氏、高梨健吉氏、寒河江善秋氏、井上ひさし氏の6氏を予定している。

**問** コミュニティスクール推進事業を拡大する計画だが、どのように進めるのか。

**教育総務課** 平成25年度に県内ですべての小学校に導入し、新年度新たに3校を指定する。地域や保護者の意見や要望を学校運営に反映させる学校運営協議会を設置する。

**意見** 新規の指定に向けては東沢小学校の成果を示し、学校や地域と協議を行い、理解を得ながら進めるよう求める。



# 町長に聞く

平成26年度の予算について、特に政策的な事項を町長に聞いた。

## 交流館条例は将来負担を約束しない

**問** 平成23年3月開校の旧第二中学校を「川西町交流館」とする条例設定だが、計画になかった新たな負担が明らかになった。条例を制定することにより、予算案議決を経ずに将来の負担を約束することににならないか。

**町長** 交流館条例は、旧二中について、生涯学習、文化の情報発信、健康増進、広域交流等の拠点施設として全面供用に向けて、設定するものである。施設全体の利活用計画、使用開始日、責任の所在を明文化、公表することにより、安心して利用できるよう上程した。当面、現状で利用できる屋内運動場、屋外運動場及びピロティ部分を本年4月から供用開始できるよう明確にした。施設の改修計画は、28年4月全面供用をめぐりに、24年度から27年度まで、概算で1億6500万円の事業費を予定していたが、消防関連設備などが必要となり、新たに約2800万円の事業費を計上した。

当初計画になかった予算を見込まざるを得なくなったことを、深く反省しお詫びする。条例設定が今後の事業費予算を担保するものでないことを確認し、今後計画に変更があった場合は適時的確な情報提供のもとで事業を執行することを求める。

## 交流事業、町が責任を持ってリードせよ

**問** やまがた里のくらし推進機構が行う交流事業の在り方を問う。

**町長** やまがた里のくらし推進機構は、平成22年度に発足して以来、4年が経過し認知度が高まっていると思っている。里のくらしは、「交流」による地域課題への対応や人材育成を図り「やまがた里のくらし大学」を通じて地域力維持、発展に寄与することを目的としている。現在、事務所として旧二中には、教育旅行の受け入れコーディネートを担当している。「山形ダリアの里体験入協議会」も入っており、設置目的に違いはあるものの、都市部の人たちをターゲットとし、川西に呼び込むという本質的な部分に差異はない。

従って、まずは両団体の発展的統合に向けて、新年度に調整を行い、体制の充実を図り、本町の総合的な交流事業展開の窓口となることを目指す。

**意見** 町としてなすべき交流事業については、里のくらし推進機構に丸投げするのではなく、政策的展開、全体コーディネートは行政が責任を持ってリードすべきである。



「やまがた里のくらし」[ダリアの里協議会]事務局

## 診療所、まちづくりの視点で整備を

**問** 平成26年度に、(仮称)診療所整備検討委員会を設置し、新たな診療所の整備計画を策定するとしている。将来の施設整備との総合的な視点が必要である。

るサテライト診療所を継続して運営していくことを基本とし、地域医療の拠点となるような診療所の整備を考えている。旧町立病院は、町社会福祉協議会も利用しており、適当な移転先がなければ複合施設も視野に入れなければならない。

**意見** 診療所のほかに複数の公共施設整備が必要となっており、今後のまちづくりにとって重要である。将来を見据え、総合的な見地から施設の複合化を図るなど、財政負担の抑制を図ること。



改築が待たれる川西診療所

平成28年度をめどに旧町立病院を解体し、将来の土地利用を見据えながら、診療所を新たに整備する方向で検討している。26年度に(仮称)診療所整備検討委員会を設置し、外部委員からの意見を反映させ具体的な整備計画を策定したい。

これまでの検討経過では、置賜広域病院組合の一次医療を提供す

# 小松小学校 事務用備品を購入

## 財産取得

新築された小松小学校の事務用備品を購入するため議会に提案された。

テーブル、戸棚など36種類410点で、指名競争入札により、株式会社三和(南陽市二色根)との契約となった。金額は1134万円。

財産の取得については、町条例の定めにより議会の議決が必要とされている。

### 財産の取得 又は処分

町条例により、予定価格700万円以上の不動産、動産の買入れ、売払いは、議会の議決に付さなければならない。なお、工事又は製造の請負は予定価格5000万円以上の場合、議会の議決に付さなければならない。



明るくなった職員室 小松小学校



# 一般質問

## 減反44年を経てこの先はどうなるか

町長―新政策に対応するための環境整備に努める



淀 秀夫 議員

定例会2日目に、4人の議員により一般質問が行われました。その内容を要約してお知らせします。

### 淀

新年度から始まる減反政策の見直し。余剰米の調整を図るため、国は44年間の長きにわたって生産調整を実施してきた。今後5年間で廃止となり、近い将来は各農家生産者の自主的な生産調整となる。

### 町長

拓事業が終わる頃には既に米余りになり、農政は目まぐるしく変化してきた。減反政策の見直しには戸惑いも起きている。平成22年産からは需要に応じた主食用米の作付を行うなど、生産農家の自由度を増す方向である。多くの農家は困惑しており、26年度から4年間で環境整備に努める。減反政策の見直しで、転作の産

### 町長

出は山形県全体で19億円が減る見込みだが、町の産出額は。生産調整の強化と直接支払の交付金単価の減額により、総額2億1700万円の減額見込み。

### 八相山線上に遺跡

### 淀

町道八相山線の新設延長事業計画は、川西町側は1000m、米沢市側が400mの区間。すでに

### 町長

新年度からの新設延長事業計画を始める前、壇山遺跡の発掘調査をする必要がある。遺跡を回避した新設道路計画を進めたいが、出来な



遺跡群を回避できるかが進み具合を左右する

### 淀

れば発掘調査というケースもある。国道287号線が砂利道時代の30年代、町道八相山線上にバイパス計画があり、建設省から調査費

### 遠藤

山形DCに対する考え方を問う。期間中は、下小松古墳群のひめさゆり、ハーブガーデン、ダリヤなど、花をテーマとした観光資源を最大に活用できる機会と捉えている。

### 町長

本町の26年度予算に「四季の観光イベント事業」として、330万円を計上しているが、その主な内容を問う。

### 町長

観光振興に関する事業全般においてDCを意識した予算措置をしたところがある。主な内容は、着地型観光として「まち歩

### 遠藤

き」の事業を拡充し、ひめさゆりウォーク、ダリヤウォーク、置養生が案内するまち歩きなど、JRと共同して商品化に取り組みたい。観光においては、美味しいものを食べていただくといったことも重要である。期間中「つや姫」を提供できる環境をつくってはどうか。

### 町長

観光においては、美味しい食文化に触れていただくことは重要であり、「つや姫」については今後検討したい。

### 遠藤

新たな農村政策はどうなる

中間管理機構に託先が見つかからない場合、管理機構が一時管理業務を受けなければならぬが、町として受け皿を育成する必要があるのではないか。

### 町長

今後、本県における委託体制が決定される見込みであり、それに基づき町としての体制を検討したい。

### 遠藤

27年度から経営安定対策が認定農業者、集落営農等に限定される。集落営農等への支援・育成が必

### 町長

要と思われるかどうか。農業再生協議会に設置した「米政策等の見直しに係る検討会」において、支援・育成等も含めた議論を行い、方向性を示したい。

### 遠藤

農業問題を農業だけの視点から捉えるのではなく農村社会、地方自治体の存亡に係る問題として捉える必要があり、農産物加工などの企業誘致を含め、町全体の所得向上に結び付く施策が

### 町長

必要である。農業振興には、次の世代に受け継ぐために、長期戦略が必要であり、「ぶれない農業」のビジョン策定が必要である。また、企業誘致については、農産物加工なども含め積極的に取り組んでいきたい。

### その他

道路整備の計画を問う。①防雪柵②道路舗装(下水道工事などによる損傷)

## 山形DC(デスティネーション・キャンペーン)の対応は

町長―十分に意識して予算化した



遠藤 章一 議員



集落営農体への育成・支援に本腰を



# 一般質問



橋本欣一 議員

## 要支援者が、介護保険から外されるが対応は

町長―柔軟かつ効率的に町の事業に移行していく

**橋本** 現在、国では、介護保険を大幅

改正して、軽度者を在宅での介護に切り替えようとしている。具体的には、

- ①要支援1、2の人を保険対象から外し、市町村事業利用に移す。
- ②一定所得（年金収入280万円以上）のある方の利用料を1割から2割にする。
- ③特養ホームの入所を要介護3以上にする。

各サービスを利用しづらくなれば、おのずと在宅での介護となり、家族や周りでの負担が大幅に増える。

厚労省のモデルでは、在宅の看取りを4割に、要介護認定者の8割を在宅介護にするという。

これに対応するため、ボランテアや地域での支えあいなどを期待しているというが、まだまだ対応できていない。いわば、ぎりぎりまで在宅でがんばっ

たら介護保険の適応にする方向であるがどう考えるか。

**町長** 現段階の情報で訪問介護と通所介護に限り、市町村が実施する新たな介護予防・日常支援総合事業への移行が予定されている。

特養ホームの入所については、要介護1、2でも市町村の判断で入所可能であるし、入所中の場合、退去を迫られないように検討さ

れている。予防給付の改正があっても、既存の介護事業所の活用や、NPO・ボランテアの充実をはかり、サービスが低下して不都合が出ないように万全を期す。

**橋本** 平成27年度から保育所利用が大幅に変わり、保育の必要量の支給認定を受け

どう取り組む、子育て支援新制度



保育制度大幅改正、負担増だけでは困る

なければならなくなる。支給認定により長時間区分と短時間区分に分かれ、短時間区分の方は、保育必要量を超えた保育時間については自己負担になるなど、保育の現場、保護者にとっても、現在の保育体制から後退するがどう考えるか。

**町長** 平成26年度に新制度の詳細が決定してから対応してい

**橋本** 小松保育所の新築計画で、運営は民間委託も視野に入れるとあるが、民間の経営不振などによる運営の困難などが予想される。保育は町が責任を持つよう強く要望する。

**その他** 山形DCをしっかりと活用

万人にも及んでいる。格差問題は、深刻な政治問題になっている。本町では、110名の臨時非常勤職員が働いている。消費税3%引き上げに相当する賃金改善を求める。

**町長** 臨時職員の賃金は、国の人事院

ただ、本町では一定の期間働いている臨時職員には一時金を支給している。他の市町に劣らない待遇であり理解を頂きたい。

# パークゴルフ場整備事業の在り方をたず

町長―観光・交流人口の拡大、経済効果を高める

**齊藤** ふれあいの丘整備事業の一つであるパークゴルフ場の整備事業は、25年度から準備が始まり、26年度は用地の取得、27年度は整備工事を行う。

事業費は、約1億5000万円となるようだ。パークゴルフ場整備スケジュールを示されたい。

**町長** パークゴルフ場の整備は、27年度までの3カ年計画で整備を進める。

**齊藤** 立地場所とコース設計はどうなった。

**町長** 町外者を呼び込み観光資源の価値を高めることから、

4コース・36ホールで整備する。コース用地は、小松スキー場の南側と西側一帯の4万平方メートル程度の面積を予定している。

**齊藤** 管理運営とボランテアの活用はどうか。

管理運営は、グリーンパークや「まどか」と連携した一体的管理を検討する。ボランテアの活用については、十分考慮していきたい。

**齊藤** コースの用地買収はどうなっているか。

昨年は、地権者の確認と現地の5万平方メートルを対

象に現地測量を行った。用地買収は、平成26年度から土地開発公社に委託し代行買収を行う。

**齊藤** 地の利を活かし、利用拡大の戦略を練り、パークゴルフ場が、誘客のための中核施設となることを望む。

**町長** パークゴルフ場の整備は、交流人口の拡大と経済効果を高めていく狙いがある。マネージメントをどうするかが課題である。

**齊藤** いま、非正規労働者は2043



冬はスキー、夏はパークゴルフ



# 臨時会

## 小松小学校新築請負契約

# 工事単価上昇で4974万円増額

1月20日、1月28日の両日、それぞれ第1回臨時会・第2回臨時会が開催された。主な議題は小松小学校新築請負契約の変更である。20日に提案された一般会計補正予算では、25年度に3948万円を財政調整基金に積み立てる予定であったものを減額し、さらに同基金から繰り入れて財源と



完成した小松小学校、新年度から使用

する。全員賛成により可決された。なお残りの外構工事などは次年度で予算化される。28日の臨時会では、変更契約を議決。同時に提案された各施設の除雪費、補正予算第6号も全員賛成で可決された。

### 労務単価など20%の急上昇

この増額は、建設工事請負契約約款の第26条の規定によるもの。2カ年以上にわたる工期の請負で、12カ月を経過した後に賃金水準や物価の変動により、請負額が不相当になったときに変更を請求できるとされている。小松小新築工事では、契約時に比べて、鉄筋工・塗装工・左官などの専門職をはじめ、労務単価が20%超の急上昇となり、資材価格も

急騰した。このため、25年11月

1日を基準日として、それ以降の施工分を再見積りし、1000分の15を差し引いた金額が増額分となる。これによって、小松の工事代金は12億874万円(税込)となった。

### がんばる地域交付金の仕組み

本文はP21に

事業名	補正額	国県支出金	町債	一般財源
基盤整備 高山	2230万円		2230万円	
基盤整備 こうすく	100万円		100万円	
基盤整備 宮地	1800万円		1800万円	
下平柳橋 補修	2600万円	1625万円	870万円	105万円
合計	6730万円	1625万円	5000万円 <sup>①</sup>	105万円 <sup>②</sup>

①+②=5105万円←町負担額  
5105万円×4割=2042万円→交付金見込み額

# 補正予算

## 国の補正予算(がんばる地域交付金)で 下平柳橋の長寿命化など6730万円

一般会計補正予算第7号が全員賛成で可決された。国の25年度第一次補正予算で「がんばる地域交付金(地域活性化・効果実感臨時交付金)」が創設さ

れたことを受け、下平柳橋の補修工事、水田基盤整備事業3カ所の実施前倒しなど9941万円の補正である。

がんばる地域交付金は「好循環実現のための景気対策」として、市町村が行う地域活性化

後に町負担額の一定比率を国が交付金として交付する。(前ページ下段「仕組み」参照)

化に向けた公共事業に 対して支援するもので、補正予算債という町債の発行を特別枠で認め、

本町では、最高40%の交付を受けられると見込んでいます。

このことによって、計画されていた五つの橋の長寿命化工事のうち下平柳橋の工事が実施されるほか、高山地区の基盤整備の26年度分37ヘクタール、同じく宮地区の20・3ヘクタールが前倒し施工となり、

こうすく地区の農道敷砂利は春作業前に実施されることとなる。

### 平成25年度各会計補正予算

会計別	歳入歳出予算	議決の内容
一般会計(第7号)	101億1644万円 (9941万円を追加補正)	全員賛成により可決
国民健康保険特別会計(第3号)	19億4260万円 (566万円を追加補正)	全員賛成により可決
水道事業会計(第3号)	収益収支5億2286万円 (110万円を追加補正)	全員賛成により可決

### 平成25年度補正予算(7号)の主な内容

(歳出)	
町有牛貸付	250万円
福祉灯油助成	240万円
バス路線維持対策(中街道)	248万円
水道事業会計支援	110万円
国保特別会計繰出金	452万円
がんばる交付金関連4事業(前ページ下段に詳細)	6730万円
(歳入)	
国庫支出金	2272万円
県支出金	332万円
町債(補正予算債)	5000万円

### 全員賛成により可決

**問** 福祉灯油の助成は、もっと早い時期に取り組みべきだ。

**健康福祉課長** 県の助成事業の決定が遅れたため、この時期となった。県補助金は各町村100万円均一である。今後この事業を継続し、実施時期を見直すこと、併せて本町の自主事業化も検討されたい。

**分科会質疑より**



下平柳の長寿命化工事前倒し



# 肥育素牛貸付限度額 一頭当たり30万円に増額

肥育素牛導入資金貸付条例の一部改正  
肥育素牛導入価格の高騰に伴い、肥育農家の経営の安定及び健全化を図るため、条例で規定する貸付限度額を一頭あたり25万円を30

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
米沢牛枝肉市場平均単価(メス1頭) ①	963,631	819,977	878,002	1,005,892
置賜家畜市場子牛単価(メス) ②	415,474	393,168	432,727	488,757
肥育牛生産費(素牛除く)*1 ③	356,778	401,702	409,597	(409,597)
枝肉価格-生産費(①-②-③)	191,379	25,107	35,678	107,538
【参考】置賜家畜市場子牛(メス)上場頭数	587	556	556	537
【参考2】肥育牛生産費のうち飼料費*2	274,585	309,317	321,637	(321,637)

\*1、2 畜産物生産費(農林水産省情報統計部発行)より。平成25年度は24年度と同額で算出。

万円に引き上げる。合わせて、償還期限を「貸付期間満了時」の次に「いずれか早い時期」を加え、肥育農家に有利な改正となった。  
**全員賛成により可決**

# 議員発議で条例制定

# 地酒で「かんぱい」

元禄年間から始まった・酒造り宿場町

本町には、江戸時代の初期から酒蔵が存在し、300年以上にわたり生活習慣や食文化

とともに日本酒が磨かれ発展してきた。大正、昭和にかけては九つの酒蔵があり、今日も四つの酒蔵が酒文化の伝統を継承し日本酒を造り続けてきた。



古来から続く伝統作業(漉入れ)

本町は、旧越後街道で名高い馬市を持つ宿場町として、数多くの村を商圏とする塩問屋、魚問屋、および料亭など長年の商業活動が存在してきた。また、日本有数のコメどころであり、長年にわたりコメ作りに励んできた農業者の存在は、酒造りの歴史と文化には欠かすことのできない存在であった。  
**乾杯は産業の振興と文化の発展に寄与す**  
3月議会で制定された本町の乾杯条例の目的は、伝統産業である地元酒で乾杯する習慣を広めることにより、



フレッシュ、できたてで「カンバイ」

地酒の普及と地域産業の振興に寄与することである。同時に、この習慣は、地域文化への

理解を深め郷土愛を育むものとなる。  
**全員賛成により可決**

## この町の未来のために

### 川西町地酒による乾杯を推進する条例

#### (要旨)

#### 第1条 (目的)

乾杯の習慣を広め、地酒の普及と食文化の伝承、産業の振興と郷土愛を育む。

#### 第2条 (町の役割)

必要な措置を講ずるとともに、情報の発信を行う。

#### (事業者の役割)

乾杯推進のため主体的に取り組むとともに、町及び他の事業者と相互協力するよう努める。

#### 第4条 (町民の協力)

乾杯の趣旨を理解し、その普及促進に努める。

#### 第5条 (個人の嗜好及び意思の尊重)

個人の嗜好及び意思を尊重する。

## 旧二中

# 「交流館」として

# 生きかえる

## 川西町交流館条例設定

平成23年3月閉校となった旧川西町立第二中学校の跡地利用は、これまで、地域の社会教育、社会体育などの活動や交流人口の拡大と地域資源を生かした町おこしを展開する拠点施設として幅広く活

用されてきた。

### 交流人口の拡大・地域情報発信の拠点施設

町の歴史と文化の伝承と地域情報の発信、生涯学習の推進、健康の増進、地域交流の拠点施設として、本町の利用のみならず、町外の人たちにも利活用し

ていただけるよう条例の整備を行うものである。

施設の管理運営は、町が管理することを基本とするが、指定管理者に管理させることも可能とする。  
**賛成多数により可決**  
(反対1人)



学校から交流の拠点に変身



# 請願

# 介護保険の見直し反対の請願 賛成少数で不採択

## 不採択

◎要支援者への予防給付を市町村事業に移行するなどの改正に反対する請願書

《所管》  
産業厚生常任委員会  
《請願者》  
平和憲法を守り、社会保障をよくする川西の会  
代表 平 隆雄

《紹介議員》  
橋本 欣一  
《審査の経過と結果》  
平成27年度から介護保険法が大幅に改正されることについて、

・デイサービス・ホームヘルパーの訪問介護の二つのサービスを保険給付からはずし、市町村事業にすること。  
・一定以上の所得者の利用料を引き上げること。  
・要介護1・2の方の特養ホームからの締め出し  
以上、これらのことは高齢者の介護保険からの

締め出しであることから、制度改正に強く反対するように政府・関係機関に対し意見書提出を求めるものである。  
審査では、地方自治体の財政負担が増えること、施設サービス利用が制限されること、今までのサービスが切り捨てられることが予想されることでの賛成意見。

反対意見は介護保険を将来とも持続可能なものとするため、必要最低限な改正であるとの意見であった。  
委員会での採決の結果は、賛成少数で不採択。本会議の採決では賛成6人、反対7人の僅差で不採択とされた。

## 継続

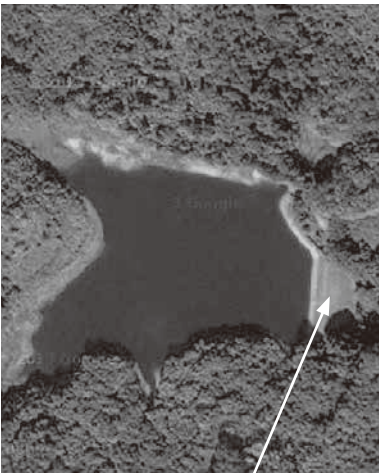
◎特定秘密の保護に関する法律の廃止を求める意見書の提出に関する件

《所管》  
総務文教常任委員会  
《請願者》  
東置賜地区平和センター  
川西地区労働組合協議会  
議長 齋藤富士雄  
《紹介議員》  
齊藤 智志  
高橋 照夫  
《審査の経過と結果》

人権無視の法律であり、戦前の治安維持法を連想させるため、すぐに廃案にすべきという廃止に賛成意見。ある程度の秘密の守秘義務は必要であると、廃止に反対意見。法案運用の詳細が分からないため、さらに調査研究し、近隣市町村の状況も考慮しながら進めるべき。との意見が出され継続審査となった。

## 飯坂ため池改修

堤本体が改修される飯坂ため池



堤本体(堤とう)

本町には、農業用ため池が飯坂ため池を含め141カ所あり、白川ダムの水とともに農業用水を供給してきた。東沢地区にある飯坂ため池は、漏水が確認されたことから、堤本体とともに、下流水路や三沢ため池の下流水路の工事が行われる。

## 過疎地域自立促進計画

この整備事業は、「県営地域ため池総合整備事業」として県が今年度から29年までの4年間で整備を行う。総事業費は、3億3000万円、国と県と町、それに受益者がそれぞれ負担することになる。本町の負担は、14%で、その財源は過疎債を活用する。そのため、川西町過疎地域自立促進計画に「地域ため池総合整備事業(飯坂)」を加えるもの。

全員賛成で可決

# 人事

## 監査委員

# 島貫氏を再任

### 監査委員の選任に同意

平成26年3月17日をもって任期満了となるため、引き続き同氏を委員として選任するため提案された。



### 島貫憲明(再任)

川西町大字洲島  
米沢平野土地改良区に勤務。事務局長を経て平成21年3月退職。平成22年3月から現職。

全員賛成で同意

### 人権擁護委員の推薦

●高根 功(再任)  
川西町大字尾長島

●長谷川 謙治(再任)  
川西町大字玉庭

両氏の任期が平成26年6月30日をもって満了となることに伴い、法務大臣より候補者の推薦の依頼があったので、議会の同意を求めるもの。

●後藤 友子(新任)  
川西町大字西大塚

●大河原 美千代(新任)  
川西町大字上小松

前任者の任期が平成26年6月30日をもって満了となることに伴い、法務大臣より後任候補者の推薦の依頼があったので、議会の同意を求めるもの。

全員賛成で同意

### 川西町農業委員の推薦

町長から、議会推薦の農業委員の推薦の通知があったため、次の3氏を指名推薦。

●平 智恵子(再任)  
川西町大字玉庭

●高橋 睦子(新任)  
川西町大字吉島

●寒河江 利博(新任)  
川西町大字洲島

全員賛成で推薦

### 川西町固定資産評価審査委員の選任

平成26年3月31日をもって任期満了となるため、引き続き同氏を委員として選任するもの。

●齋藤 幸夫(再任)  
川西町大字荏

全員賛成で同意

### 松川堰組合議会議員の選挙

任期満了に伴い、同氏を議会での選挙により当選人とするもの。

●横山 明博(吉島)  
川西町大字吉田

全員賛成で選任

### 表紙の写真



しゅっぱつ  
しんこう!  
3月22日、羽前小松駅駅舎が全面改築された。その竣工式が執り行われました。

この日、黒田米沢駅から羽前小松駅の一日駅長に任命された二人。

小松小学校2年生の森谷 玲央 君

遠藤 奏奈 さん

10時50分の下り列車に「出発進行！」  
この時、風も止み日射しも増して、川西町の明るい未来を予感させるかのようでした。



# 現行定数15人を維持すべき

という意見が大勢を占めた。来年の改選は現行定数のまま行われる予定となった。



多くの意見を生かし、慎重に — 各種団体との話し合い

議員定数に関する  
調査特別委員会報告  
(委員長  
高梨勇吉副議長  
委員 全議員)

今後の本町議会としての適正な議員定数と議会組織の在り方について、約半年間をかけて調査研究した。全国の類似自治体との比較、町民との意見交換会（本年度は、小松、大塚、中郡）の状況、各団体との意見交換、各議員からの意見聴取など、慎重に検討を進め、結果をまとめた。

## 調査のあらまし

項目	意見結果	備考
類似団体との比較	・全国124団体の平均は14.9人	人口1万5000人から2万人までの町村
意見交換会	・現定数で十分機能させてほしい	小松、大塚、中郡各地区
商工会役員との話し合い	・減らすメリットよりデメリットのほうが大きい。 ・議会機能を維持する最低限度の人数の確保が必要。 ・現在議員1人が何役も兼務している。	産業厚生常任委員会との話し合いにて
各種団体との話し合い	・議会機能を維持する最低限度の人数の確保が必要	自治会、老人会、婦人会、青年組織、町づくり委員
議員からの意見聴取	・1名減-1人 ・現状維持-11人 ・保留-1人	

## 総務文教常任委員会 新学期を前に急ピッチ 小松小工事現場を視察



川西町交流館の有効活用を願う

2月18日、建設中の小松小学校と川西町交流館（旧2中）の現地調査を行った。

小松小学校は、職人不足、資材の調達遅れなどで約1カ月の工事日程の遅れとなっていたが、新学期を前に急ピッチの工事であった。内装工事に職人、資材が入り乱れての現場では、新学期に間に合わせようという熱意が伝

わってきた。

川西町交流館は屋内運動場の屋根補修が終了し、次に校舎内部の改修となるが、合宿などに利用する簡易宿泊施設とするためには新たに非常用の電源設備などが必要となった。さらなる予算追加はいかなるものかと委員の中から疑問が出され、見通しの甘さが指摘された。



成功への道は険しい—アドバイザー高木先生を招いて

### 産業厚生常任委員会 「6次産業成功への道は険しい」 アドバイザーによる研修会を開催

6次産業化推進のため、川西町6次産業化推進アドバイザーの高木正氏を講師に招き、1月28日研修会を行った。

高木氏からは、①6次産業推進並びに拠点施設運営は若い人による起業と参画がポイント。②運営主体は、企業や第3セクターに任せ、みてはどうか。店長はプロでなければだめ。③起業の際は、多くの人から出資を募ることも重要である。④直売所は、野菜などを並べ立てるだけではだめだ。川西町は米がうまい、米をベースに、弁当、惣菜などを販売するのもおもしろい。⑤6次産業の成功への道は険しい隣接の飯豊町、長井市、米沢市を潰すぐらいの勢いで、町民一致団結して取り組まないと成功しないなど貴重な指摘があった。





ダリア園開園20周年記念式典で挨拶する齋藤議長

2月10日から18日までブラジルサンパウロ州スザノ市を訪問する。期間中、スザノ市・市議会議長・ブラジル山形県人会・サンパウロ日伯援護協会などを表

敬訪問し多くの関係者のみなさん、特に、日系県人会の皆さんにくさんのもてなしを受け、素晴らしい交流と親睦が深められ感謝している。

## 交流訪問

# ダリアが結ぶ国際交流

### 齋藤議長、ブラジル・スザノ市を訪問

高齢者養護老人施設スザノ・イペランジャホームのダリア園が開園20周年を迎え、ブラジル最大のダリア祭りが開かれた。

20年前に川西から送られた球根から始まり、今では100種類以上の花を咲かせるそうだ。(訪問時はまだつぼみの状態)

遠くブラジルに渡られ幾多の困難を乗り越えられた日本人、日系人の皆さんに敬意を表し、ますますのご活躍を祈る。ダリアが取り持つ縁を大切にスザノ市と川西町がより強い絆で結ばれ、交流が盛んになることを願う。

(議長 齋藤修一 記)



藤倉さん(大川出身)の説明を聞く

まちの未来が見える (3月定例会の傍聴者は34人)

# 議会傍聴においでください

次の定例会は6月

定例会本会議はNCV、インターネットでご覧になれます

## 3月定例会の議決状況

議会基本条例の規定により各議員の議案に対する賛否状況を報告する。

議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	14	15
議員名	橋本 欣一	遠藤 章一	斉藤 智志	高橋 建一	黒澤 巖	高橋 照夫	淀 秀夫	加藤 俊一	島貴徳(石門)	高橋 忠	金子 一郎	佐々木賢一	高梨 勇吉	齋藤 修一
議17号 町道路線の廃止について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
議14号 川西町交流館条例の設定について	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議8号 平成26年度川西町国民健康保険事業特別会計予算	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議11号 平成26年度川西町介護保険事業特別会計予算	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議12号 平成26年度川西町後期高齢者医療特別会計予算	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
請願2号 要支援者の予防給付を市町村事業へ移行するなどの改正に反対する請願書	○	○	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○

町提出議案24件、請願審査2件、議員発議4件で上記以外の議案については、出席者全員賛成のため未記載とした。○は賛成、×は反対 議長は賛否に加わらない。

## 議長交際費(議会活性化の一環として公開)

4月から9月までは、10月15日号で公開済み

年月	件数	金額	内容	年月	件数	金額	内容
25年10(9)月	1	5,000	置賜議長会	26年 2月	1	5,000	香典
11月	3	11,000	街路灯点灯式ほか	3月	-	-	
12月	4	17,000	各団体新年会ほか	下半期合計	14	83,000	※上半期 135,776円
26年 1月	5	45,000	香典・生花ほか	年合計	38	218,776	

### 広報モニターから

## ひとこと③

吉島 梅津 稔さん



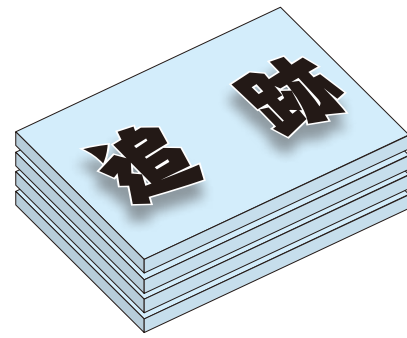
私が議会だよりにより、興味を持つようになったきっかけは、ある号の表紙に我が子が写っていた時からでした。それまでは見出しと写真に目を通す程度のものでした。先日、町村議会広報全国コンクールの受賞祝賀会にご一緒させていただきました。その

ときに、議会終了から発行までの短い期間で、委員の議員の皆さんが、何度も内容を精査しながら書き直していることを教えていただきました。少しでも町民に読んでもらえるように、伝えるようにと、思いを込めて並々ならぬ努力と熱意で編集されていることを改めて知ることができました。残念ながら都合が合わず議会の傍聴はできていないのですが、広報モニターとして任期中に傍聴するようにしたいと考えております。子育て真っ最中の身として、将来この川西町が子どもたちにとって、より暮らしやすい町になってほしいと強く思います。町民として、住みやすい町になっていくように町政に興味を持ち、見守っていきたいと考えています。



表彰

# 議会だより全国コンクール 4年連続 優良賞



## あれから…… どうなった!



議会だより第113号が第28回町村議会広報全国コンクールにおいて昨年引き続き4年連続「優良賞」を受賞した。(応募総数2



優良賞 第113号

さらに、第114号が第19回山形県町村議会広報コンクールで第2位の入選となり、ダブル受賞を果たした。



栄えある受賞(全国優良賞、県入選)



初心を忘れずに頑張ります

### おめでとつ自治功労者表彰

議員在職27年以上の全国町村議会自治功労者として、高橋輝行前議員、議員特別表彰を齋藤修一議長、置賜地方町村議会議長会からは、議員在職10年以上の自治功労者に高橋建一議員、議員在職17年以上の自治功労者に淀秀夫議員、齋藤修一議長が表彰された。おめでとつございます。

審査委員からは「議会閉会から発行まで21日での発行は断トツの速さで、広報委員6名に加え、住民アドバイザー15名が参画する先進的な編集体制が効果的であることや、随所に住民の声を届ける企画をはめ込んでいる。」ことなどが評価された。

さらなる研鑽を積み町民に愛される全国一の紙面づくりを目指したい。

### 第28回町村議会広報全国コンクール表彰作品

賞(総合順位)	編集議会名	審査対象広報紙
最優秀賞(第1位)	岩手県金ケ崎町議会	議会だよりかねがさき No.106
優秀賞(第2位)	宮城県大和町議会	たいわ町議会だより No.176
優秀賞(第3位)	群馬県吉岡町議会	吉岡町議会だより No.99
優秀賞(第4位)	山形県庄内町議会	こんには庄内町議会です No.35
優良賞(第5位)	宮城県利府町議会	りふ議会だより No.149
優良賞(第6位)	岩手県岩泉町議会	いわいずみ議会だより No.163
優良賞(第7位)	愛知県幸田町議会	こうた議会だより No.148
優良賞(第8位)	山形県川西町議会	かわにし議会だより No.113
優良賞(第9位)	高知県越知町議会	おち町議会だより No.104
優良賞(第10位)	新潟県聖籠町議会	聖籠町議会だより No.102
表紙フォトグラフィ賞	京都府久御山町議会	くみやま議会だより No.130



新しい駅で新たな町づくりをー羽前小松駅

羽前小松駅の老朽化に伴い、JR東日本が昨年11月から駅舎を建て替えていたが、このたび完成し3月22日に

記念式典が行われた。新駅舎は鉄骨造り平屋で、延べ床面積96.4平方メートル。外観は格子戸様の木枠をあしらひ、

## 羽前小松駅舎全面改築

## 新たなまちづくりの拠点となれ

和風の落ち着いた建物になっている。

羽前小松駅は、昭和56年に無人駅舎の検討がなされたものの、「灯を消すなまちの駅」をスローガンに官民一体となった無人化阻止運動が展開された。

昭和57年から町が駅業務を受託し、全国初の「町民駅」として運営され、「管理業務組合」を組織し、切符販売、改札などの管理運営にあたってきた。

高校生が街を変える

平成22年からは、任意団体「えき・まちネットこまつ」が管理運営を行い、置賜農業高校の生徒との連携をと

し、駅を中心としたまちづくり活動を展開している。

置賜農業高校は、これまで駅を中心としたまちの活性化事業に取り組み、「観光甲子園文部科学大臣賞」「山新3P賞・平和賞」など数々の栄に浴してきた。

置賜農業高校の生徒たちが24、25年度に実施した「えき・まち活性化事業」を紹介しよう。

交流の活動

④紅大豆本舗の菓子委託販売

など、多彩な活動を展開してきた。

新たな駅舎で新たな町づくりを目指そう

JR東日本は、「町民駅」として駅業務を担ってきたことや、駅を拠点として行われてきたさまざまな活動を評価し、新駅舎を整備した。

この新駅舎整備を契機とし、置賜農業高校の活動との連携を図りながら、新たな町の中心市街地活性化事業が展開されることを期待する。



# 町民の声



## ❖ プロフィール ❖

ほり あきこ  
堀 亜希子

山形市出身、中郡在住。  
夫と3カ月の息子との3人家族。  
趣味、パン作りをすること。  
中郡地区交流センターの事務局長。

中郡地区にお住まいの堀亜希子さんに子育てや町に望むことを聞きました。

### 川西町に住んで思うこと

結婚を機に4年前に山形市から移住してきました。自然の豊かさだけでなく驚異も経験しました。冬は苦手ですが、夏の通り抜ける風が心地良く大好きな季節になりました。

地域の皆さんのつながりの強さにも驚きました。はじめは自治会活動など戸惑うことも多くありましたが、地区外からやってきた私たちが温かく受け止めて下さる近所の皆さんのおかげで、安心して生活しています。

川西町にきてはじめて家庭菜園や漬物の作り方も近所のお母さんたちに教えていただきながら楽しんでいきます。

### 最近の一番の思い出

11月30日に、息子が生まれたことです。最近によく声を出したり



楽太郎君と新米パパ、新米ママ

甘えたりするようになり、日々成長を感じています。

### 町に望むこと

子どもが生まれてから、町の子育て支援についてたくさん知りました。医療費の無料化など子育てしていく上で大変助かります。少子化により同じくらい

の子どもや家族が少なくなりましたので、気軽に集ったり子どもを遊ばせたりすることのできる屋内施設があると便利だと思います。

福祉の充実など川西町の良さを若い世代に知ってもらい、将来もここで生活したいと思っ

てほしいです。さらに町外や県外の人たちにもうまく魅力をアピールし、これらの川西町がさらに元気になっていくといいな

と思います。

## 編集のあと

▼本号のトップは政策提言書。町民の皆さんとの意見交換から約半年かかった。初めてのことで、その過程に反省点も多い▼最も気になるのは、応えやすい提言書だったかということだ。良い提言は具体的でシンプルな回答を引き出すのではないかと▼一年後に検証されるのは当局の施策の進展ばかりではない。

(クロ)

- 発行責任者 齋藤 修一
- 委員長 佐々木賢一
- 副委員長 橋本 欣一
- 委員 島貫徳石 工門
- 同 黒澤 巖
- 同 齊藤 智志
- 同 遠藤 章一
- アドバイザー(文章) 大友喜味雄
- アドバイザー(写真) 青木 督平
- 鳴 源一
- 斎藤 史郎